

# 平成 21 年度スポーツ振興助成について

(21 年度の特長)

スポーツ振興くじ助成金関係 (1,546件 6,101百万円)

(スポーツ振興基金への充当を含む。)

募集を中断していた事業の復活等により、競技力の向上及びスポーツの普及分野の各事業を充実。

**グラウンド芝生化事業** 51件 922百万円

(制度発足以来、最多の助成内定件数・金額、うち校庭は、19件)

**総合型地域スポーツクラブ活動助成(創設支援も含む。)** 757件 1,743百万円

(過去最多の助成内定件数・金額)

助成経費対象のクラブマネジャー1名の他に、今回から新たに、副(サブ)のクラブマネジャー1名を助成経費の対象に加えた。結果として、159人の副(サブ)のクラブマネジャーの雇用を創設。

**国際競技大会開催助成** 5大会 338百万円

(過去最多の内定件数)

今回、規定を改正し、助成限度額を引き上げた(対象経費の4% 20%、上限2億円)。

**国民体育大会冬季大会の競技会開催支援事業** 1件 67百万円

助成対象として2年目。助成上限額を引き上げて(上限1億円に変更)対応。

**スポーツ団体が行う選手の発掘・育成強化助成** 55件 456百万円

(過去最多の助成内定件数・金額)

**アンチ・ドーピング活動推進事業** 68件 1,427百万円

ドーピング防止活動の推進関係の助成は、今年度からスポーツ振興くじ助成となったことに伴い、助成額が急増。

(過去最多の助成内定件数・金額)

スポーツ振興基金関係 (582件 975百万円(くじからの充当を含む。))

くじ助成金財源の一部を基金助成財源に充てることにより、助成金の上限額の引き上げを行う。また、選手・指導者スポーツ活動助成(個人助成)についても、増員。

(ユースエリートを増員130人 200人)

(平成20年度助成:650百万円 21年度助成:975百万円)